

## 趣 旨 説 明

坂 口 俊 哉\*

早速、本日の内容の背景と趣旨について説明させていただきます。

まず、背景としてスポーツ界の動向について説明をしていきたいと思えます。皆さんご存じのように2013年に東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したのちに、2015年にスポーツ庁が設置されました。これまでスポーツ行政は、ほぼ文部科学省を中心として実施されてきたわけですが、スポーツ庁できたということで、今までは健全育成だとか健康づくりのツールとしての価値というところのスポーツがすごく焦点が当てられてきたのではないかと思います。最近では社会経済を活性化するために、どうやってスポーツを利用していくのかということに焦点が当てられるようになってきています。

読まれた方もいらっしゃるかも知れませんが、今年1月の『Wedge』です。「スポーツで街おこし プロ化だけが解じゃない」というような大きなタイトルで発売されていました。これまでですと、スポーツ参加を中心として、する・見る・支えるといった関わりの中から楽しさや喜びや、あるいは感動といったものをどうやって供給するのか、あるいは体験するのかといったところに焦点が当てられてたと思うんですが、最近では経済活性化であるとか、あるいは町おこし、あるいは社会環境を変化させるためのツール、あるいはビジネスとして、スポーツの活用ということに注目されるようになってきています。

第2期のスポーツ基本計画の中でも様々な取り組み、あるいは目標値が設定されていますけれども、例えばスポーツ市場を5兆円から15兆円、3倍へ拡大させようであるとか、あるいはスポーツツーリズムの売り上げ3800億円という数字であるとか、あるいは、スポーツアドミニストレーターを大学に設置するのを100大学設置しましょうとか、こういったことが数値目標として掲げられ、スポーツを成長産業化させようということが取り組みとして行われています。

これはスポーツ庁のホームページですが、ス

ポーツによっていかに活性化するかというところに焦点が当てられるようになってきたということは、多分こちらにいらっしゃる皆さんも、何となく気付いていらっしゃると思います。そして、最後になりますけれども、その取り組みの中に、大学のスポーツの振興というものを通じて、どうやってスポーツによる活性化を成し遂げるのかというようなことも、言われるようになってきています。

そこで二つ目の大学界の動向について説明させていただきます。この20年ぐらいの間でしょうか、18歳人口の減少であるとか、あるいは大学改革、あるいは産学官連携、あるいは協働といったような言葉がキーワードになっているかと思います。大学の役割としては、研究・教育といったようなものだけではなく、地域にどうやって貢献していくのかということが重要であると言われるようになりました。これまでですと、大学というのは学生や教職員だけで構成されるような印象があったかと思いますが、最近では大学は地域の資源であるという立場でくり直してみようという動きも見られます。

これは、内閣府から引っ張ってきたものですが、大学が持つ資源を活用しようという動きはスポーツ界だけではなくてあちこちで起こっています。地域再生あるいは地方創生のために、大学と地域がどのように連携していくのかということが重視されるということです。スポーツに限っていいますと、平成28年に大学スポーツの振興を目的として、第1回の検討会議が開催され、検討事項の一番下のところになりますけれども、大学スポーツを核として、地域活性化をどのように成し遂げるのかということもテーマに掲げられました。そして、つい最近の話題ですが、UNIVASが始動しました。

鹿屋体育大学の取り組みにあらためて目を向けてみますと、2006年にはNIFSスポーツクラブが立ち上がって、地域の子どもたちに対するスポーツサービスを提供したり、あるいは最近ですとCASEプロジェ

\* 鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター

クト、皆さんのお手元にあるかと思いますが、みんなのタイムトライアルといった取り組みもなされています。それから、Blue Windsが2018年に創設され、様々なスポーツイベントが開催されてきました。実はこれは、昨年のこの協力者会議のときに、こんな取り組みがなされていますということで説明をしたら、ちょうど増井さんの画面もここにありますが、大学のスポーツが地域にどのような可能性を与えるのかということが日本スポーツツーリズム振興機構でテーマとして取り上げられるということも近年は見られました。

そして、こういったことを背景としまして、今日の会議ですけれども、大学スポーツを地域活性化のツールとして利用するにはどうしたらいいのか、あるいはどのような活用の仕方があるのか、そもそも大学のスポーツ資源というのはいったいどういうものがあるのか、それから地域振興の可能性はどういうことがあるのか、あるいは収益を含めた好循環のポイント、どのようにすれば好循環ができあがっていくのかということについて、皆さんと一緒に考えていければなと思っています。